

ポイント 各社で支出した寄附金についてその支払先に応じ、指定寄附金等・特定公益増進法人等・その他・連結法人間の4区分にします。連結法人間の寄附金については、100%グループ法人税制により、支払先は全額損金不算入・受入先は全額益金不算入となり、単体納税と同様です。法人による完全支配関係のない法人への寄附金についての損金算入限度額をグループ全体で求めるかどうかは単体納税と異なります。

A8 計算例を確認してみましょう

連結法人	指定寄付金等		特定公益増進法人等		その他		小計		連結法人間		合計	
	①	5,000	③	27,000	⑥	17,000	⑨	49,000	⑫	3,000	⑮	52,000
P社	①	5,000	③	27,000	⑥	17,000	⑨	49,000	⑫	3,000	⑮	52,000
S2社			④	1,000	⑦	4,000	⑩	5,000	⑬	2,000	⑯	7,000
連結計	②	5,000	⑤	28,000	⑧	21,000	⑪	54,000	⑭	5,000	⑰	59,000

P社の連結親法人の期末の連結個別資本金等の額は30,000(⑱)です。

連結所得金額仮計の合計額957,170(⑲)です。

(1) 一般寄付金の損金算入限度額

$$\text{所得基準額} = (957,170 \text{ (⑲)} + 59,000 \text{ (⑰)}) \times 2.5/100 = 25,404 \dots \text{ (⑳)}$$

$$\text{資本基準額} = 30,000 \text{ (⑱)} \times \frac{12}{12} \times 2.5/100 = 75 \dots \text{ (㉑)}$$

$$\text{損金算入限度額} = (\text{㉑} + \text{㉒}) \times 1/2 = 12,740 \dots \text{ (㉓)}$$

(2) 特定公益増進法人等に対する寄附金の特別損金算入限度額

$$\text{所得基準額} = (957,170 \text{ (⑲)} + 59,000 \text{ (⑰)}) \times 5/100 = 50,809 \dots \text{ (㉔)}$$

$$\text{損金算入限度額} = (\text{㉑} + \text{㉔}) \times 1/2 = 25,442 \dots \text{ (㉕)}$$

(3) 寄附金の損金不算入額

$$\begin{aligned} \text{損金算入限度超過額} &= 54,000 \text{ (⑪)} - 12,740 \text{ (㉓)} - 25,442 \text{ (㉕)} - 5,000 \text{ (②)} \\ &= 10,818 \dots \text{ (㉖)} \end{aligned}$$

$$\text{寄附金の損金不算入額} = 5,000 \text{ (⑭)} + 10,818 \text{ (㉖)} = 15,818 \dots \text{ (㉗)}$$

(4) 寄附金の個別帰属損金不算入額

寄附金の個別帰属損金不算入額の算式

$$\text{連結外全体の損金不算入額}^{\text{㉕}} \times \frac{A - \left\{ B + C \times \frac{D}{D \text{の連結合計}} \right\}}{A \text{の連結合計} - (B \text{の連結合計} + C)}$$

A 各連結法人のグループ外への寄附金支出総額 ㉑又は㉒

B 各連結法人の国等への寄附金及び指定寄付金支出総額 ㉓

C 特定公益増進法人等に対する寄附金支出額のうち、連結グループ全体としての損金算入額 . . . ㉔

D 各連結法人の特定公益増進法人等に対する寄附金支出額 ㉕又は㉖

1) P社の個別帰属損金不算入額

$$10,818^{\text{㉕}} \times \frac{49,000 - \{5,000 + 25,442 \times 27,000 / 28,000\}}{54,000 - (5,000 + 25,442)} + 3,000^{\text{㉒}} = 11,939$$

2) S2社の個別帰属額損金不算入額

$$10,818^{\text{㉕}} \times \frac{5,000 - \{0 + 25,442 \times 1,000 / 28,000\}}{54,000 - (5,000 + 25,442)} + 2,000^{\text{㉒}} = 3,879$$